

# 報道資料

令和3年10月14日

1	件名	小泉明郎 <b>縛られたプロメテウス</b>
2	日時	2021年10月23日(土)、24日(日)各日10回上演 有料/各回定員15名 ※詳細はウェブサイトをご確認ください
3	場所	山口情報芸術センター [YCAM] スタジオ B
4	内容	<p><b>VR とギリシア悲劇の融合が描き出す話題作を関西以西で初上演</b></p> <p>山口情報芸術センター [YCAM] では、演劇、音声、映像などの手法を組み合わせ、現代美術や演劇の文脈などで高い評価を受けている、アーティストの小泉明郎による VR (バーチャル・リアリティ/仮想現実) を用いた、体験型の演劇作品《縛られたプロメテウス》を上演します。古代ギリシアの詩人アイスキュロスによる悲劇「縛られたプロメテウス」を原作に、この神話から発想された近未来の中で、観客は自分とは異なる「他者」の感覚や感情を VR で追体験します。</p>  <p>▶ <b>開催概要</b></p> <p>2021年10月23日(土)、24日(日)各日10回上演 上演時間: 60分 ※入れ替え制/集合時間: 上演の10分前までにスタジオ B 前に集合 定員: 各回15名/上演言語: 日本語/英語/対象年齢: 13歳以上</p> <p>▶ <b>関連イベント: 《縛られたプロメテウス》アーティストトーク</b></p> <p>10月24日(日) 13:00~13:40   スタジオ C   参加無料 (チケット購入者対象/定員50名) 登壇: 小泉明郎 (アーティスト)、星野太 (美学・表象文化論研究者)</p> <p>■ <b>プロフィール</b></p> <p><b>小泉明郎 (こいずみ・めいろう)</b> 1976年生まれ。国家・共同体と個人の関係、人間の身体と感情の関係について、現実と虚構を織り交ぜた実験的映像やパフォーマンスで探求している。2021年《縛られたプロメテウス》で第24回文化庁メディア芸術祭アート部門で大賞を受賞。カーディフ国立博物館 Artes Mundi 受賞。</p> <p><b>星野太 (ほしの・ふとし)</b> 1983年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科准教授。専門は美学、表象文化論。著書に『崇高の修辞学』(月曜社、2017年)、共著に『コンテンポラリー・アート・セオリー』(イオスアートブックス、2013年)、訳書にジャン＝フランソワ・リオタール『崇高の分析論』(法政大学出版局、2020年)などがある。</p> <p><b>ぜひ事前告知や当日のご取材など、ご検討くださいますようお願いいたします。</b></p>
5	問い合わせ	山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課 (担当: 蛭間) TEL: 083-901-2222 / FAX: 083-901-2216 <a href="mailto:press@ycam.jp">press@ycam.jp</a>